でん粉の価格調整業務実績について（令和元でん粉年度）

特産調整部、特産業務部

はじめに

当機構では「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」に基づき、コーンスターチ用輸入とうもろこしおよび輸入でん粉から調整金を徴収し、それを財源として国内のでん粉原料用かんしょ生産者やいもでん粉製造事業者に支援を行うことで内外価格差を調整し、国内のでん粉の安定的な供給の確保を図っている。

本稿では、令和元でん粉年度（令和元年10月１日～２年９月30日〈以下「元SY」という〉）におけるでん粉の価格調整業務実績について取りまとめたので、報告する。

なお、令和元砂糖年度における砂糖の価格調整業務実績については、本誌３月号において報告する予定である。

1. 調整金徴収業務

（1）元SYの指標価格等

元SYの指標価格等は表１の通り。

（2）でん粉の需要と供給

令和２年９月に農林水産省が公表した元SYのでん粉の需給見通しは、表２、３の通り（詳細は、『砂糖類・でん粉情報』2020年11月号参照）。

表１　元SYの指標価格等

	29SY	30SY	元SY
でん粉調整基準価格（円／トン）	154,900	156,900	161,010
前年比（円）	+3,290	+2,000	+4,110
指定でん粉等調整率（%）	5.329	4.466	4.354
前年比（ポイント）	▲ 0.474	▲ 0.863	▲ 0.112

注１：各年告示番号（平成29年９月29日農林水産省告示1500号）、（平成30年９月28日農林水産省告示2143号）、（令和元年９月30日農林水産省告示946号）
注２：でん粉調整基準価格とは、輸入でん粉等と国内産いもでん粉との価格調整の基準となる金額。
注３：指定でん粉等調整率とは、輸入でん粉等の輸入者から徴収する調整金の負担水準を定める率。内外のでん粉のコスト格差に当該率を乗じて、調整金単価を算定。

表２　でん粉の需給見通し

（単位：千トン）

			平成30でん粉年度（実績）			令和元でん粉年度（見込み）			令和2でん粉年度（見通し）		
			10−3月	4−9月		10−3月	4−9月		10−3月	4−9月	
需要	糖化製品		804	967	1,772	823	910	1,733	814	938	1,752
需要	化工でん粉		160	167	328	154	142	296	160	155	315
需要	その他（製紙用、ビール用、片栗粉など）		283	274	557	259	288	547	278	295	573
需要	合　計				2,656			2,576			2,640
供給	前年度繰越				12			14			29
供給		国産いもでん粉（生産量）	197	—	197	206	—	206	208	—	208
供給		かんしょでん粉	27	—	27	28	—	28	31	—	31
供給		ばれいしょでん粉	170	—	170	178	—	178	178	—	178
供給	調整金徴収対象	コーンスターチ	1,073	1,222	2,295	1,067	1,149	2,216	1,085	1,176	2,262
供給	調整金徴収対象	輸入でん粉（糖化製品、化工でん粉用）	69	72	141	68	71	139	71	71	142
供給	輸入でん粉（その他用）		5	4	9	6	7	13	7	8	15
供給	小麦でん粉		8	9	17	8	8	16	8	8	16
供給	合　計				2,671			2,605			2,672
次年度繰越					14			29			33
次年度繰越	*うち国産かんしょでん粉*				*5*			*6*			*2*
次年度繰越	*うち国産ばれいしょでん粉*				*9*			*23*			*30*

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」
注１：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。
注２：でん粉年度とは、10月から翌年９月まで。

表３　でん粉需給の推移

需要　（単位：千トン）

でん粉年度	糖化製品（異性化糖・水あめなど）	化工でん粉	その他	繊維・製紙段ボール	ビール	畜水産練製品	その他（注）	需要量計
平成20	1,828	338	593	175	106	25	287	2,759
21	1,712	348	588	195	98	25	270	2,648
22	1,857	329	618	204	92	25	297	2,804
23	1,796	319	569	172	98	16	283	2,683
24	1,803	296	525	161	100	16	248	2,623
25	1,792	312	533	179	99	18	237	2,637
26	1,721	324	523	182	98	17	226	2,568
27	1,754	336	568	190	98	17	263	2,658
28	1,753	337	564	200	96	16	252	2,653
29	1,737	323	614	198	92	15	309	2,673
30	1,772	328	557	207	86	15	250	2,656
令和元（見込み）	1,733	296	547	186	65	13	283	2,576
2（見通し）	1,752	315	573	197	71	14	291	2,640

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」
注１：その他の欄のその他は、片栗粉、菓子、麺類、調味料、建材、医薬、飼料などの需要量の計である。
注２：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

供給　（単位：千トン）

でん粉年度	かんしょでん粉	ばれいしょでん粉	コーンスターチ	輸入でん粉	小麦でん粉	供給量計
平成20	42	235	2,324	139	20	2,759
21	47	203	2,248	131	20	2,648
22	51	179	2,412	142	20	2,804
23	45	168	2,307	145	19	2,683
24	36	169	2,258	142	18	2,623
25	39	175	2,266	140	17	2,637
26	39	186	2,190	136	18	2,568
27	36	197	2,273	135	17	2,658
28	37	175	2,271	152	17	2,653
29	31	178	2,303	144	17	2,673
30	27	170	2,295	150	17	2,659
令和元（見込み）	28	178	2,216	152	16	2,590
2（見通し）	31	178	2,262	157	16	2,643

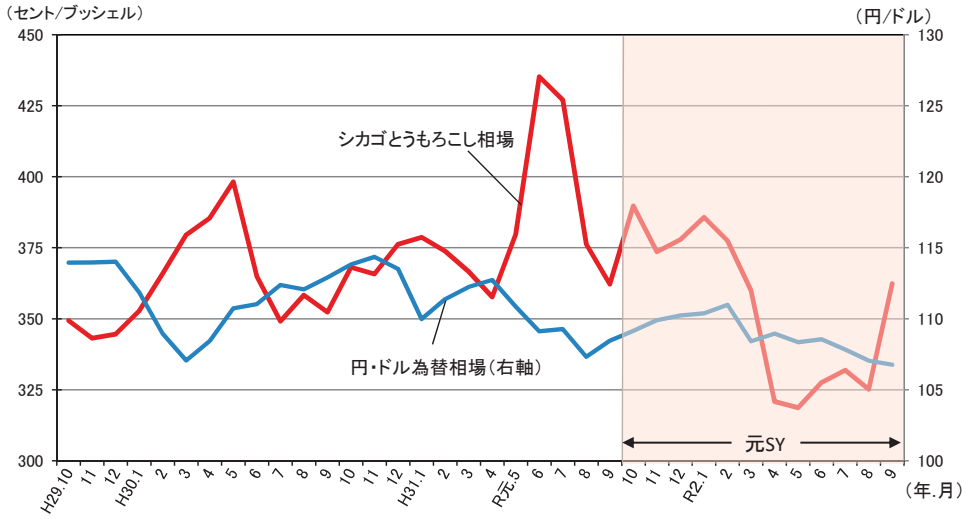
資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」
注１：供給数量は、かんしょでん粉およびばれいしょでん粉について、前年度繰越分を加え、次年度繰越分を減じている。
注２：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

（3）国際相場などの動き

シカゴ先物相場（期近）は、近年米国産とうもろこしが連続して豊作となっていることを背景に、30SYは１ブッシェル当たり350セント以上で推移していた（図１）。元SY前半もこうした傾向が続き、米国農務省の在庫報告などを材料に小幅に上下しつつも同350セント以上で推移した。しかし元SY後半になると、原油価格の下落によるエタノール需要の減退や新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大による米国畜産業における飼料需要減退の懸念を要因として４月に急落し、５月には同310セント台まで下落した。その後、米国中西部のハリケーン被害などに加えて、中国の旺盛な買い付けにより９月には同360セント台まで上昇した。

一方、米ドルの為替相場は、令和元年10月に１ドル110円弱の水準でスタートし、元SY後半は円高傾向で推移したことから、元SY末は106円台となった。

図１　米国産とうもろこしのシカゴ先物相場（期近）および為替相場の推移



（4）指定でん粉等の平均輸入価格等

元SYにおける指定でん粉等の平均輸入価格等は表４の通り。

表４　指定でん粉等の平均輸入価格等

		平均輸入価格（円/トン）	でん粉　（円/トン）			とうもろこし　（円/トン）			とうもろこしシカゴ相場		為替
			買入価格	売戻価格	調整金単価	買入価格	売戻価格	調整金単価	（ドル/BU）	（ドル/トン）	（円/ドル）
29SY	平成29年　10月～12月	57,580	57,580	62,766	5,186	33,952	37,479	3,527	3.5995	141.71	111.93
	30年　1月～3月	58,670	58,670	63,798	5,128	34,506	37,993	3,487	3.4598	136.21	113.92
	30年　4月～6月	59,200	59,200	64,300	5,100	35,012	38,480	3,468	3.6424	143.39	110.01
	30年　7月～9月	61,140	61,140	66,136	4,996	36,587	39,985	3,398	3.8580	151.88	109.80
30SY	30年　10月～12月	61,090	61,090	65,369	4,279	37,419	40,329	2,910	3.5256	138.80	112.25
	31年　1月～3月	61,890	61,890	66,133	4,243	37,969	40,854	2,885	3.6884	145.21	114.07
	31年　4月～6月	61,280	61,280	65,550	4,270	37,507	40,411	2,904	3.7325	146.94	111.16
	令和元年　7月～9月	61,750	61,750	65,999	4,249	37,724	40,614	2,890	3.8467	151.44	111.20
元SY	元年　10月～12月	62,820	62,820	67,095	4,275	37,786	40,693	2,907	3.9459	155.34	108.36
	2年　1月～3月	62,940	62,940	67,210	4,270	37,858	40,762	2,904	3.7974	149.50	109.57
	2年　4月～6月	62,680	62,680	66,961	4,281	37,776	40,687	2,911	3.7861	149.05	109.81
	2年　7月～9月	58,210	58,210	62,686	4,476	34,645	37,689	3,044	3.2446	127.74	108.82

（5）売買実績

元SYの売買数量は、輸入でん粉が前年度比0.7%増の14万2000トン、でん粉供給量の大半を占めるコーンスターチ用とうもろこしが同8.1%減の310万トン、売買差額は、輸入でん粉が同1.8%増の６億1300万円、コーンスターチ用とうもろこしが同6.7%減の91億2000万円で、合計では同6.2%減の97億3300万円となった（表５）。

元SYの後半は、COVID-19の拡大による外出自粛などの影響により、コーンスターチ用とうもろこしは、清涼飲料向けの糖化製品の需要と情報・広告分野の電子化による製紙・段ボール向けの需要が減少したことにより売買数量は大幅に減少した。一方、輸入でん粉は、巣ごもり需要により仕向け先のインスタント食品やレトルト食品が販売好調であったこともあり、前年と同水準の売買数量を維持した。

表５　指定でん粉等の売買実績

SY	輸入でん粉		コーンスターチ用とうもろこし		売買差額合計（百万円）
	売買数量（千トン）	売買差額（百万円）	売買数量（千トン）	売買差額（百万円）	
29	135	691	3,387	11,738	12,429
30	141	602	3,375	9,779	10,381
元	142	613	3,100	9,120	9,733

2．交付金交付業務など

（1）でん粉原料用いもおよび国内産いもでん粉の生産動向

ア．でん粉原料用ばれいしょ・ばれいしょでん粉

北海道のばれいしょ生産は、近年170～190万トン程度で推移しており、その約４割がでん粉原料用に仕向けられている。作付面積は減少しているものの、でん粉生産量は横ばい傾向にある。

令和元年産について、２年９月の農林水産省の需給見通しでは、生育期間全般において天候に恵まれいもの肥大が良好であったことから収穫量が8.5%増加したため、ばれいしょでん粉生産量は、前年比4.7%増の17万8000トンの見込みである（表６）。

表６　でん粉原料用ばれいしょ・ばれいしょでん粉の生産動向（北海道）

SY	作付面積（千ha）	単収（kg／10ａ）	収穫量（千トン）	うちでん粉原料用の生産量（千トン）	でん粉生産量（千トン）
29	51.3	3,670	1,883	783	178
30	50.8	3,430	1,742	745	170
元（見込み）	49.6	3,810	1,890	806	178

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

イ．でん粉原料用かんしょ・かんしょでん粉

南九州のかんしょ生産は、農家の高齢化を要因として、作付面積および収穫量とも減少傾向にある。

令和元年産について、２年９月の農林水産省の需給見通しでは、サツマイモ基腐（もとぐされ）病（立枯症状や塊根部が腐敗する症状）が鹿児島県内の約５割の圃場（ほじょう）で深刻な病害をもたらしたため、かんしょの収穫量は前年比7.3%減の34万2000トンと減少したものの、競合する焼酎用需要の落ち込みを受け、かんしょでん粉生産量は過去最低となった前年産から3.7%増の２万8000トンへ漸増の見込みである（表７）。

表７　でん粉原料用かんしょ・かんしょでん粉の生産動向（南九州）

SY	作付面積（千ha）	単収（kg／10ａ）	収穫量（千トン）	うちでん粉原料用の生産量（千トン）	でん粉生産量（千トン）
29	15.6	2,386	372	100	31
30	15.7	2,346	369	92	27
元（見込み）	14.6	2,342	342	93	28

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

（２）交付金の交付状況など

ア．でん粉原料用いも交付金（でん粉原料用かんしょのみ）

収穫期はおおむね９月から11月であり、いもでん粉製造事業者へ売渡しを行った者に対し交付金を交付している。

令和元年産については、消費税率引き上げなどによる交付金単価の引き上げと焼酎用からでん粉原料用へ仕向けられた数量の増加を受けて、交付決定金額は前年比4.0％増の24億7800万円となった（表８）。

表８　でん粉原料用いも（かんしょ）交付金交付決定実績

SY	交付金単価（円/トン）	交付決定数量（千トン）	交付決定金額（百万円）
29	26,000（23,410）	100	2,592
30	26,000（23,410）	92	2,383
元	26,610（23,960）	93	2,478

注１：交付金単価は、アリアケイモ、コガネセンガン、こないしん、コナホマレ、こなみずき、サツマアカ、サツマスターチ、シロサツマ、シロユタカ、ダイチノユメ、ハイスターチおよびミナミユタカのものである。なお、こないしんは令和元年産から追加。
注２：かっこ書きはその他の品種である。

イ．国内産いもでん粉交付金

ばれいしょでん粉およびかんしょでん粉の販売は年間を通じて行われ、販売したものに応じて交付金を交付している（表９）。

（ア）ばれいしょでん粉の交付状況

元SYの交付実績は、交付決定数量は前年同期比1.1％増の９万4000トン、交付金額は交付金単価の引き上げもあり同15.3％増の18億9500万円とそれぞれ増加した。

（イ）かんしょでん粉の交付状況

元SYの交付実績は、交付決定数量は前年同期比11.1％減の２万4000トン、交付金額は交付金単価が引上げられたものの数量の減少に伴い同7.0％減の８億8600万円とそれぞれ減少した。

表９　国内産いもでん粉交付金交付実績

SY	ばれいしょでん粉			かんしょでん粉		
	交付金単価（円/トン）	交付決定数量（千トン）	交付金額（百万円）	交付金単価（円/トン）	交付決定数量（千トン）	交付金額（百万円）
29	17,731	96	1,685	37,460	32	1,169
30	17,717	93	1,644	34,854	27	953
元	20,774	94	1,895	37,759	24	886

（3） 国庫納付金納付業務（でん粉原料用ばれいしょ）

でん粉原料用ばれいしょ生産者への農業の担い手に対する経営安定のための交付金の交付に要する経費の財源に充てるため、元ＳＹにおいては、農林水産大臣からの通知に従い、調整金収入から48億2500万円を国庫に納付する予定である（表10）。前年度より減少した主な要因は、COVID-19の拡大の影響でコーンスターチ用とうもろこしの売買数量（輸入数量）が減少し調整金収入が減少したことによる。

表10　国庫納付金納付実績の推移

SY	国庫納付金額（百万円）
29	6,261
30	5,246
元（見込み）	4,825

（4） でん粉の価格調整業務における収支（見込み）

元SYの収入は、前年度と比較して、COVID-19の拡大による外出自粛などの影響により清涼飲料向けの糖化製品の需要などが減少したため、コーンスターチ用とうもろこしの売買数量が減少し、調整金収入は６億円減となる97億円となった。

元SYの支出は、前年度と比較して、ばれいしょでん粉は交付金単価および交付決定数量が増加したことから交付金額は３億円増の19億円となり、かんしょでん粉は交付金単価が引き上げられたものの交付決定数量の減少により交付金額は１億円減の９億円となった。でん粉原料用かんしょは、交付金単価および交付決定数量の増加を受けて交付金額は１億円増の25億円となり、でん粉原料用ばれいしょの支援は国の経営所得安定対策により行われているが、この財源として支出する国庫納付金は上記のように調整金収入の減少などを受けて納付額も４億円減の48億円と見込んでいる。これらの結果、支出合計は前年度より１億円減の101億円と見込まれる。

以上の結果、元SYにおける調整金収支は、４億円の赤字（前年度は２億円の黒字）と見込まれる（表11）。

なお、元SY末の調整金の期末残高は30億円の見込みであり、年間を通して短期借入金は発生しなかった（図２）。

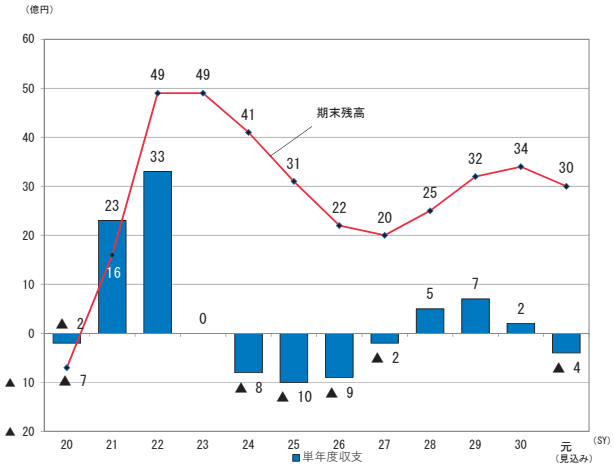
表11　元SYの収支前年比較

（単位：億円）

	29SY	30SY	元SY（見込み）	対30SY増減
収入	124	104	97	▲ 6
支出	117	102	101	▲ 1
ばれいしょでん粉	17	16	19	3
かんしょでん粉	12	10	9	▲ 1
ばれいしょ（国庫納付）	63	52	48	▲ 4
かんしょ	26	24	25	1
単年度収支	7	2	▲ 4	▲ 5

注：端数処理の関係で増減などが一致しない場合がある。

図２　でん粉の調整金収支の推移



注：端数処理の関係で単年度収支と期末残高が一致しない場合がある。